

県内初 大友組が試験施工

ウィードコート工法

㈱大友組(大友満輝社長、宇検村)は24日、宇検村若木の県道沿いで歩道部の雑草発生を防止するウィードコート工法を使った試験施工を県内で初めて実施した。写真。

三重県の松岡建設㈱が開発した同工法は、接着性や耐候性に優れた特殊なポリウレタン樹脂を使用し、舗装と縁石などの界面、隙間に生える雑草の発生を防止するもの。主に歩道部や中央分離帯、側道部などに使用され、これまで同県を中心に愛

知、静岡など全国で施工実績がある。

作業には大友組社員6人が参加して、舗装と歩道縁石の取り合い部約40m、舗装とガードレール部分の境目約50m区間の2箇所で行われた。大島支庁瀬戸内事務所職員らが見守る中、社員は除草や除根作業をしたあと、2液常温硬化型のポリウレタン樹脂「ウィードコート」を所定個所に流し込み、コテなどで平滑に2〜3mm程度に塗布したあとウィードサンドを散

布した。作業は手際よく進み約1時間ほどで完了した。

瀬戸内事務所職員は「これからは維持管理が重要になってくるので、

有効な活用法の一つには違いないと思う。過去の資料や実績例等を参考にしながら検討したい」と話した。大友社長は「夏場には雑草がひざまで伸び景観も悪くなる上に、ハブが潜み通学する児童に危険が及ぶこともある。県道だけでなく農道なども含めさまざまな意見を要望を発注者へ提案していきたい」と語った。

